

年報発刊の辞

増田義郎

昨年6月8日、日本ラテンアメリカ学会が発足して以来、学会組織を確立するためにいろいろ努力が払われると同時に、会員諸兄姉の研究活動のための便宜をはかるため、研究会や講演会が企画されてきた。しかし、当初から、学会活動のうちでもっとも重要視されてきたのは、学会誌の発行であり、これに関しては、理事会で何度か討議がおこなわれた。学会誌は、会員の研究成果の報告を掲載すると同時に、その年度における内外の研究の進展状況を集約する重大な任務を負っていると考えられる。したがって、その様式の決定にあたっては、慎重な準備が必要とされる。1980年度に開かれた理事会における討議の結論は、学会誌を年報(annals)形式とし、高度な学術的内容をもちこむことを目標にするが、さしあたって第1号は、準備の期間があまりなかったため、創立大会のシンポジウム、講演会の原稿を中心に編集し、第2号から正式な編集委員会を作って本格的な制作を開始する、ということであった。第1号の編集にとりかかったところ、上記のほか、東京における第一回研究会の松下洋氏の発表、および石井章氏のアジア経済研究所におけるラテンアメリカ研究の要約の二原稿が得られ、全体として充実した内容になったことをよろこばしく思う。

いよいよ第2号から本格的に進行する年報の発行に、学会員諸兄姉が全面的なご協力を惜しまれず、最新の研究成果をどしどし寄せられることを期待すると同時に、本学会が国際的な学術交流を重視する建前から言って、欧文による年報発行の可能性も将来の課題として残しつつ、年報を大きく育てて行きたいと思う。

